

**小樽市における
カジノ誘致関連資料**

小樽市 観光の概況

○ 小樽市への観光入込客数等の状況(小樽市調べ)

	H17年度	H18年度	H19年度
観光入込客数(千人)	7,560.4	7,696.5	7,405.8
道外客数	2,171.6	2,251.1	2,224.2
道内容客数	5,388.8	5,445.4	5,181.6
日帰り客数	6,847.7	7,000.6	6,738.2
宿泊客数	712.7	695.9	667.6
宿泊客延数(千人)	786.8	773.2	733.6
修旅宿泊客数(人)	29,485	27,179	26,926
修旅宿泊学校数(校)	319	306	294
外国人宿泊者数(人)	35,358	38,167	39,062
外国人宿泊客延べ数(人)	40,286	43,110	44,526

- ・ 観光入込客数が毎年700万人を超える全国でも有数の観光地
- ・ 近年は香港、韓国、台湾などを中心に外国人観光客数が増加
(H19年度宿泊人数 香港14,599人、韓国9,706人、台湾9,213人)
- ・ 年間観光総消費額 1,319億円
観光総消費額がもたらす市内総売上2,668億円=市内産出額8,540億円の31.2%
(※ 観光総消費額はH15.10～H16.9の推計、市内総生産額はH12年度市民経済計算より)
- ・ 観光経済波及効果による雇用効果は18,499人と推計

○ 小樽観光の課題(小樽市観光基本計画 H18年4月策定より抜粋)

- (1) マス・ツーリズム依存からの脱却
団体周遊旅行「量」→小グループ・個人旅行「質」
- (2) 国際化・グローバル化への対応強化
国際貿易港としての歴史、気風を活かし国際的に通用する観光地づくり
- (3) 滞在型・歩いて楽しむ街への変革
地域特性を生かし、時間消費型観光に転換
- (4) 多様な地域資源の活用と広域連携の推進
中心部だけの観光から、市内全域、後志管内など周辺観光地との広域連携観光に
- (5) 個性豊かで人情味あふれる小樽人の活用
市民の活力を観光振興に生かす
- (6) さらなる意識改革の必要性
オール小樽で観光振興に取り組むための体制づくり

小樽にカジノを誘致する会 設立趣意書

小樽観光の人気の要因は、明治時代以降北海道の流通拠点港として栄えた街の歴史と文化や遺産が坂、山、海などの自然景観と調和し、加えて充実した食文化が観光客に「やすらぎ」や「癒し」を提供していることにあると考えています。

観光の街として脚光を浴びる一方、小樽市は人口の減少や高齢化の進展、雇用水準の低迷等厳しい経済環境にございます。

北海道観光の最大の弱点は冬期間の観光入込客数の落ち込みにあります、小樽市においては恒常的な宿泊率の低迷も挙げられます。

自由民主党政務調査会観光特別委員会カジノ・エンターテイメント検討小委員会がまとめた「我が国におけるカジノ・エンターテイメント導入に向けての基本方針」によりますと、来訪する国際観光旅客や多様化した国民のニーズに対応する新たな観光資源の開発を求めており、中でもカジノ・エンターテイメントは経済波及効果、収益を用いた新たな財源、周辺地域の税収増・雇用増などをもたらすことから内国人向けの施設としても有効であり、新たなエンターテイメント産業の創出にも大きく寄与することから、数年以内の導入実現を図るべきと記されています。

現在、我が国では、賭博行為として禁止されているカジノですが、今や我が国を除くG8諸国はじめ120カ国超で合法化されており、外国人観光客の増大や滞在型観光の伸展に有効である他、地域経済活性化の観点から地元の雇用対策や消費の拡大、さらには既存観光施設と連携した新たな観光資源の掘り起こしに繋がるなどの相乗効果も期待されています。

カジノの実現については、法整備はもとより、青少年対策や依存症対策、市民コンセンサスの形成などの課題はございますが、小樽市が国内・海外に対して魅力溢れる観光地であり続けるために、カジノは街の活性化戦略の中でも重要な観光振興策であると考えます。

日本におけるカジノの法制化を見据え、将来の小樽エリアでのカジノの実現が、小樽市の地域振興及び国際観光振興に寄与するものとして、様々な調査、研究等を行い、カジノの誘致を目指すことを目的に「小樽にカジノを誘致する会」を設立いたしました。

つきましては、趣旨にご賛同を賜りぜひご入会下さいますようお願い申し上げます。

平成20年12月

小樽にカジノを誘致する会
会長 真田俊一

小樽にカジノを誘致する会

(平成20年12月24日)

顧問	小樽市長	山田勝磨様
"	小樽商工会議所 会頭	鎌田力様
相談役	関口正雄法律事務所 所長	関口正雄様
"	小樽市総連合町会 会長	石井正巳様
"	小樽市P.T.A連合会 会長	奥村秀幸様
オブザーバー	北海道知事政策部 様、同経済部 様	
"	小樽市総務部 様、同産業港湾部 様	
会長	社団法人小樽観光協会 会長	眞田俊一
副会長	小樽商工会議所 副会頭	山本秀明
"	小樽商工会議所 副会頭	山西條文雪
"	小樽市商店街振興組合連合会 理事長	中村全博
理事	社団法人小樽観光協会 副会長	谷口美津江
"	社団法人小樽観光協会 専務理事	赤間元
"	小樽建設事業協会 会長	中野豊
"	小樽商工会議所 國際委員長	斎田義孝
"	社団法人小樽青年会議所 理事長	石川稔
"	北海道中央バス株式会社 代表取締役	平尾一彌
監事	税理士法人中央会計事務所 代表社員	杉下清次
"	菊池洋一税理士事務所 所長	菊池洋一
事務局長	小樽商工会議所 専務理事	中松義治

高橋はるみ北海道知事が支援表明

市民と産・官・学

観光都市小樽はオール小樽でカジノ誘致を！

2008年11月18日、高橋はるみ北海道知事が小樽でのカジノ誘致についての支援を表明。同年10月2日に小樽市議会第3定期会にて「小樽観光都市宣言」を議決し、さらに「小樽にカジノを誘致する会」を設立（同12月）。今後のさらなる誘致活動が期待できる小樽について、小樽市長をはじめ重鎮の方々に語っていただいた。

文：編集部 写真：小牧寿里



通過型から滞在型観光地へ
官民一体となつた取り組み

海老名 まず市長から小樽市の観光の経緯と現状についてお話をいただけますか。

海老名 誠
(小樽商科大学ビジネス創造センター教授)

山田 1986年に小樽運河が整備され観光入込客数は増え続けましたが、1999年度の972万人をピークにその後減少し、08年度の見込み客数は約740万人です。このようにピーク時から減少したものの、観光産業は今や小樽の基幹産業であり、これから的小樽観光をさらに発展させていこう、ということ

で2007年に小樽市観光基本計画を策定しました。その中では具体的な観光振興策を推進するため、観光推進プロジェクト会議を立ち上げ、現在も議論を重ねています。

海老名 その小樽観光基本計画をさらに具体化したのが、今回の小樽観光都市宣言というわけですね。

山田 そうです。小樽の観光は、日帰り観光客つまり通過型観光客が大半を占めています。滞在型観光客をもっと増やしていくなければいけません。そこで、小樽の観光をよりグレードアップさせるために、官民一体となつたこの宣言ができたのです。従来のやり方で小樽を売り



[小樽市 DATA]

■面積: 243.30 km² ■人口: 136,870人 (世帯数 67,853) * 2008年11月現在 ■交通: 新千歳空港から約74km (JR/快速エアポートで約70分) ニセコから約73km、余市から約20km ■2008年上期小樽市観光入込客数: 観光入込客数399万200人 (対前年度比98.7%)、日帰り客数361万8600人 (対前年度比98.9%)、宿泊客数37万1600人 (対前年度比96.9%)、外国人宿泊客数2万3140人 (対前年度128.7%) *国・地域別では香港、韓国、台湾の順に多い。

海老名 多喜二は小樽育ちの作家ですか
山田 そうです。JTB北海道小樽支店
に、小樽市内の多喜二ゆかりの地を巡
る「小林多喜二・1日文学散歩」と銘打
ったバスツアーを募集していただきまし
た。幸い第一回の募集には30数名がお申
し込み下さり、無事実現に至りました。
このように個別のテーマごとに小樽を売
り込んでいくと、滞在型観光にもつてい
ける可能性が出てくると思います。また、
移住促進事業にも取り組み、お試しに長
期滞在していただき、小樽移住の判断を
していただくというメニューも用意して
います。このメニューではかなりの数の
体験ができますから、移住とまではいか
ないまでも長期滞在に結びつけば、滞在
型観光の促進につながるかと思います。

海老名 次に眞田会長伺います。観光
協会のお立場で、小樽観光の経緯をご説
明下さい。

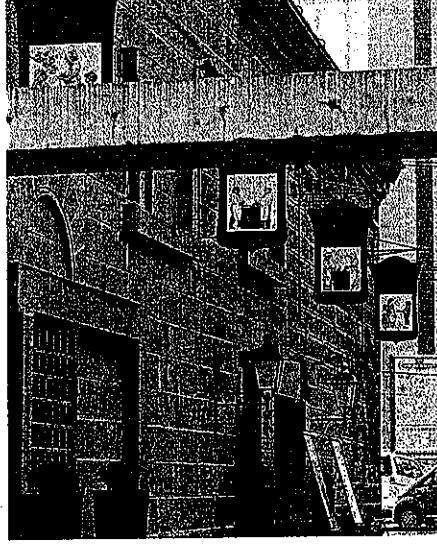
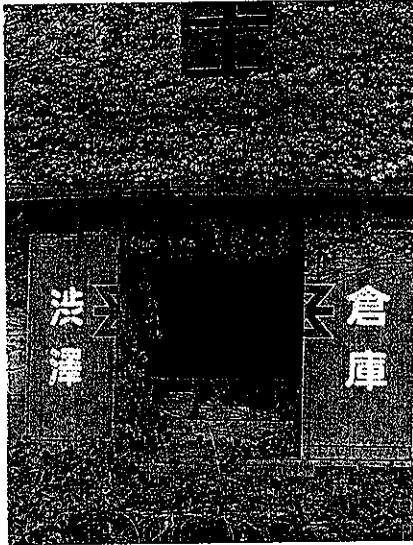
眞田 小樽はかつて石炭の積み出し港で
あり、日本で3番目に鉄道が敷設され

込んでいくのではなく、たとえば「蟹工
船」ブームに乗っかった小林多喜二のツ
アーを旅行会社に提案するなど、小樽の
特徴を売り込んでいく必要があります。

海老名 多喜二は小樽育ちの作家ですか
山田 そうです。JTB北海道小樽支店
に、小樽市内の多喜二ゆかりの地を巡
る「小林多喜二・1日文学散歩」と銘打
ったバスツアーを募集していただきまし
た。幸い第一回の募集には30数名がお申
し込み下さり、無事実現に至りました。
このように個別のテーマごとに小樽を売
り込んでいくと、滞在型観光にもつてい
ける可能性が出てくると思います。また、
移住促進事業にも取り組み、お試しに長
期滞在していただき、小樽移住の判断を
していただくというメニューも用意して
います。このメニューではかなりの数の
体験ができますから、移住とまではいか
ないまでも長期滞在に結びつけば、滞在
型観光の促進につながるかと思います。

海老名 次に眞田会長伺います。観光
協会のお立場で、小樽観光の経緯をご説
明下さい。

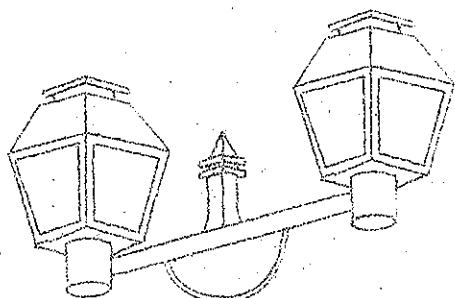
眞田 小樽はかつて石炭の積み出し港で
あり、日本で3番目に鉄道が敷設され



海老名 観光について今後はどのような
仕掛けをお考えですか。

眞田 昔に比べ、小樽市民の観光に対する
意識が高まっているのが良い兆しです。
これまでにも小樽市民が主体となつて、
「小樽雪あかりの路」や「小樽ロングクリスマス」などの大きな取り組みを行つてきました。普通、こういった試み
は官主導で行われるのですが、小樽の場合
は全て市民からの発想です。

また観光入込客数ですが、人口比の
4、5倍が一般的であるのに対し小樽は
50倍です。これは世界的にみても珍しい
ケースで、素晴らしいことだと私は思い



山田勝磨（小樽市長）

海老名　その観光振興の一助として、現在、カジノが注目されています。小樽商工会議所は06年にカジノ・エンターテイメント特別委員会（以下、カジノ委員会）を設立し、以来、勉強会、調査・研究を重ね、08年10月には、小樽にカジノを誘致する会の設立を正式に宣言されたと伺っていますが、鎌田会頭の思惑をお聞かせ下さい。

観光の基盤あつて」そのカジノ誘致

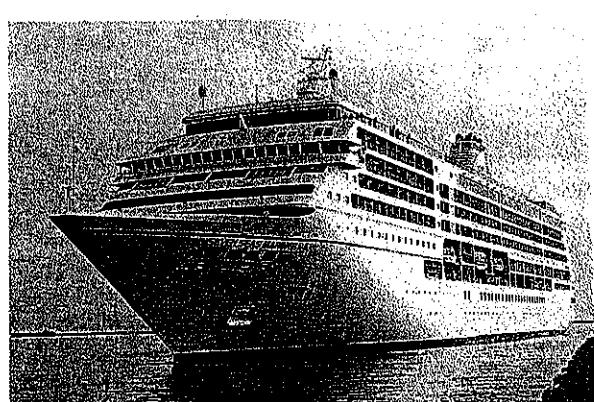
ます。ですから小樽は数だけを目標とするのではなく、質と量とその中間の3つを選択できるよう、市民と一体となって発展させていきたいと思います。

ます。ですからカジノはただ直感しました。それ以来、カジノについて商工会議所内部で議論が行われ、さらにカジノ委員会設立を経て、勉強会を重ねてきました。

しかし、合法化が近づいていく中で、いつまでも勉強ばかりしていくいいのだろうか？　ということでお席委員全員一致で方向性を確認しました。それは、カジノ誘致に関しては、小樽商工会議所だけで議論すべきことではなく、オール小樽の観点で市民の理解を得る必要がある、

という方向性です。カジノ反対に回ると思われる人も含めたオール小樽の会を立ち上げる必要があるのです。

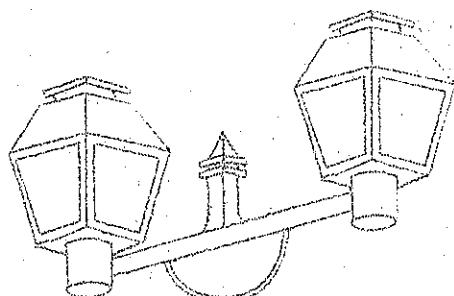
木村　私は世界に点在する弊社CAIのカジノのみならず、これまで数多くのカジノに触れてきました。そこで私は一貫として主張していることがあります。それはカジノは、まずその地域の観光、歴史、文化などに溶け込んだものでなければなりません。弊社CAIは「観光とカジノは一体化的なもの」と定義し、ナイトライフの充実など、カジノが既存の観光地にいろいろと付加価値を付け、その地域の観光経済に活力を与える、というのが基本的なスタンスです。さらに重要なことは、日本でカジノといえば、ラスベガス、マカオ、シンガポールの話題がよく出てきますが、それらの場所は世界の中でも特質な場所です。弊社はヨーロッパの企業ですが、ヨーロピアンスタイルやラスベガススタイルという枠に当てはめるの



小樽港にはCAIカジノの豪華客船も頻繁に寄港する

ます。カジノが実現できるのか？　カジノ・オーストリア・インターナショナル（以下、CAI）の木村代表はどのようにお考えですか。

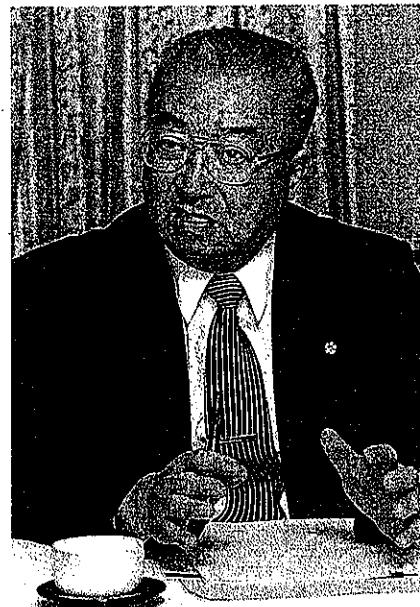
Inviting Casino to Otaru
Governor of Hokkaido Harumi Takahashi announced support



木村 沖縄では04年からカジノの啓蒙活動を行っています。当初は住民の反対で転じるのか教えて頂けますか。

海老名 小樽市民の中には、カジノという言葉自体に抵抗といいますか、偏見を持たれている方も多いかと思います。CIAが既に活動されている沖縄を例に、どのように説明をしたら反対から賛成に転じるのか教えて頂けますか。

ではなく、小樽には小樽でしかできないオンリーワンのカジノを創るべきだと思います。小樽は、運河や明治以来の美しい建物が多く残されているのがとても魅力的です。ちなみに小樽は大型客船も寄港できる良港であり、弊社の運営するカジノが楽しめる豪華客船が世界の富裕層を乗せ、たびたび寄港しています。小樽はそのような世界のお客様にも十分楽しんでいただける街だと思っております。



眞田俊一（小樽観光協会会長）

がとても強く、特にご婦人からの反対が多かつたですね。これは沖縄に限ったことではありません。カジノ反対論を唱えている多くの日本人は実際にカジノに行つたことがない人が圧倒的に多く、イメージで判断されているようです。カジノを体験した上ででの反対なら反論のしがいもありますが、「カジノ」という言葉自体で拒絶反応を示される方がほとんどです。そこで重要なことは、まず「カジノ」というものをよく理解して頂くことです。

弊社の様々な資料やデータ、写真などを使い、説明会や勉強会を根気よく重ねて参りますと良く理解していただけたようです。

海老名 観光の基盤としては、小樽は誇るべき歴史と実績を持つていますが、カジノが小樽観光に付加価値を与えるということについて、市長はどのようにお考えですか。

山田 付加価値をあげるということであれば、小樽にカジノがあつてもいいと思います。個人的にもカジノに対し悪いイメージはありません。数年前に、ニュージーランド・ダニーデンのホテルにあるカジノルーレットをやつたことがあります

が、社交場というか健全な娯楽場という印象でした。



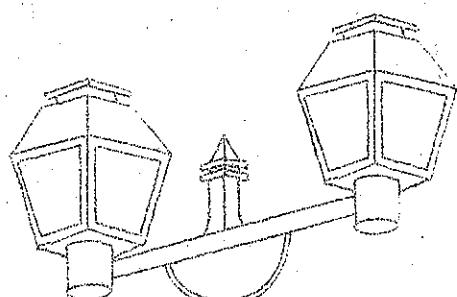
鎌田力（小樽商工会議所会頭）



ですが、外国人観光客来道数は約71万人。そのうちアジアからの来道客数は約63万2000人。約9割が東アジアの観光客です。小樽も同様で、07年の宿泊者数約4万人のうち約3万5000人が東アジアからのお客様です。このデータからも小樽には多くの外国人観光客が訪れていることが分かり、そういう意味でカジノがあつてもいいだらうと思います。



木村慶一
(カジノ・オーストリア・インターナショナル日本代表)



海老名 カジノを誘致するといったときに、世の中を一新するような議論に引き込まれそうな感じがありますが、ラスベガスやマカオといった巨費を投じたカジノ・コンプレックスではなく、ヨーロッパ型のモデルをさらに誘致していくといった理解で宜しいのでしょうか。

**観光には賑わいが必須
広域連携でのカジノ誘致**

海老名 カジノを誘致するにあたって北海道厅との関わりはございますか。

山田 先日たまたま私のところに（道厅

から）「カジノについて進めたらどうか」

という電話がありました。道内では各地でカジノ誘致の手が挙がっていますが、北海道の中では小樽が進んでいる、というのが道厅の認識だと思います。また、議員立法でのカジノ合法化を待つよりも、道州制特区の中でカジノを容認できるの

であれば、そのほうが早いのでは、という意見もあります。いずれにしても、現に小樽は観光地ですから「カジノをつくりてお客様を集めるのではなく、カジノがあれば楽しめる、というイメージで私はカジノに期待しています。

海老名 小樽では、有名な歴史的建造物、寿司、ガラス製品のP・Rや、運河に船を浮かべるなど様々な試みが行われていますが、カジノを誘致することで観光の深みが増す、ということについて

眞田会長はどのようにお考えで

しょうか。

眞田 観光には、静寂、自然と
いつた面だけではなく、賑わい
を求めるという「一面もありま

す。人ごみの賑やかな中にいる
だけで癒されるという人たつて
いるのです。石川啄木も「かな



海老名誠

(小樽商科大学ビジネス創造センター教授)

しきは 小樽の町よ「歌ふ」となき人々の声の荒さよ」と歌いましたが、これは二シン漁や賑わう小樽の町の活気を歌ったものです。小樽には世界に冠たる港があり、ロシア（サハリン、ウラジオストック）、韓国、北朝鮮、中国という環日本海の国々との関係の中で、観光地・小樽が果たす役割も増してくるように思います。

海老名 現在、札幌でも巨大な再開発をしながらカジノを誘致するという案がありますが、そうなると小樽は札幌と近いがゆえにメリット、デメリットの両方が出てくると思います。誘致にあたって札幌を含む石狩支厅と、小樽を含む後志支厅（しりべししちょう）が広域に協力するといったことも考え得るのでしょうか。

山田

（道厅

から）

「カジノについて進めたらどうか」

という電話がありました。道内では各地

でカジノ誘致の手が挙がっていますが、

北海道の中では小樽が進んでいる、とい

うのが道厅の認識だと思います。また、

議員立法でのカジノ合法化を待つよりも、

道州制特区の中でカジノを容認できるの

であれば、そのほうが早いのでは、とい

う意見もあります。いずれにしても、現

に小樽は観光地ですから「カジノをつくりてお客様を集めるのではなく、カジノ

があれば楽しめる、というイメージで私はカジノに期待しています。

海老名 カジノを誘致するといつたとき

に、世の中を一新するような議論に引き

込まれそうな感じがありますが、ラスベ

ガスやマカオといった巨費を投じたカジ

ノ・コンプレックスではなく、ヨーロッ

パ型のモデルをさらに誘致していくとい

つた理解で宜しいのでしょうか。

木村慶一

(カジノ・オーストリア・インターナショナル日本代表)

なると思いますが、はじめからカジノありきではなく、旅行者の憩いの場として副的にカジノがあり楽しさの厚みを増した観光地にしたいというのが私のイメージです。今後、反対の方にも議論に加わっていただき、核になる理念をはつきりと打ち出した上で誘致活動を行っていくべきだと思います。

山田 先日たまたま私のところに（道厅

から）「カジノについて進めたらどうか」

という電話がありました。道内では各地

でカジノ誘致の手が挙がっていますが、

北海道の中では小樽が進んでいる、とい

うのが道厅の認識だと思います。また、

議員立法でのカジノ合法化を待つよりも、

道州制特区の中でカジノを容認できるの

であれば、そのほうが早いのでは、とい

う意見もあります。いずれにしても、現

に小樽は観光地ですから「カジノをつくりてお客様を集めるのではなく、カジノ

があれば楽しめる、というイメージで私はカジノに期待しています。

海老名 カジノを誘致するといつたとき

に、世の中を一新するような議論に引き

込まれそうな感じがありますが、ラスベ

ガスやマカオといった巨費を投じたカジ

ノ・コンプレックスではなく、ヨーロッ

パ型のモデルをさらに誘致していくとい

つた理解で宜しいのでしょうか。

木村慶一

(カジノ・オーストリア・インターナショナル日本代表)

なると思いますが、はじめからカジノありきではなく、旅行者の憩いの場として副的にカジノがあり楽しさの厚みを増した観光地にしたいのが私のイメージです。今後、反対の方にも議論に加わっていただき、核になる理念をはつきりと打ち出した上で誘致活動を行っていくべきだと思います。

山田 先日たまたま私のところに（道厅

から）「カジノについて進めたらどうか」

という電話がありました。道内では各地

でカジノ誘致の手が挙がっていますが、

北海道の中では小樽が進んでいる、とい

うのが道厅の認識だと思います。また、

議員立法でのカジノ合法化を待つよりも、

道州制特区の中でカジノを容認できるの

であれば、そのほうが早いのでは、とい

う意見もあります。いずれにしても、現

に小樽は観光地ですから「カジノをつくりてお客様を集めるのではなく、カジノ

があれば楽しめる、というイメージで私はカジノに期待しています。

海老名 カジノを誘致するといつたとき

に、世の中を一新するような議論に引き

込まれそうな感じがありますが、ラスベ

ガスやマカオといった巨費を投じたカジ

ノ・コンプレックスではなく、ヨーロッ

パ型のモデルをさらに誘致していくとい

つた理解で宜しいのでしょうか。

木村慶一

(カジノ・オーストリア・インターナショナル日本代表)

なると思いますが、はじめからカジノありきではなく、旅行者の憩いの場として副的にカジノがあり楽しさの厚みを増した観光地にしたいのが私のイメージです。今後、反対の方にも議論に加わっていただき、核になる理念をはつきりと打ち出した上で誘致活動を行っていくべきだと思います。

山田 先日たまたま私のところに（道厅

から）「カジノについて進めたらどうか」

という電話がありました。道内では各地

でカジノ誘致の手が挙がっていますが、

北海道の中では小樽が進んでいる、とい

うのが道厅の認識だと思います。また、

議員立法でのカジノ合法化を待つよりも、

道州制特区の中でカジノを容認できるの

であれば、そのほうが早いのでは、とい

う意見もあります。いずれにしても、現

に小樽は観光地ですから「カジノをつくりてお客様を集めるのではなく、カジノ

があれば楽しめる、というイメージで私はカジノに期待しています。

海老名 カジノを誘致するといつたとき

に、世の中を一新するような議論に引き

込まれそうな感じがありますが、ラスベ

ガスやマカオといった巨費を投じたカジ

ノ・コンプレックスではなく、ヨーロッ

パ型のモデルをさらに誘致していくとい

つた理解で宜しいのでしょうか。

木村慶一

(カジノ・オーストリア・インターナショナル日本代表)

なると思いますが、はじめからカジノありきではなく、旅行者の憩いの場として副的にカジノがあり楽しさの厚みを増した観光地にしたいのが私のイメージです。今後、反対の方にも議論に加わっていただき、核になる理念をはつきりと打ち出した上で誘致活動を行っていくべきだと思います。

山田 先日たまたま私のところに（道厅

から）「カジノについて進めたらどうか」

という電話がありました。道内では各地

でカジノ誘致の手が挙がっていますが、

北海道の中では小樽が進んでいる、とい

うのが道厅の認識だと思います。また、

議員立法でのカジノ合法化を待つよりも、

道州制特区の中でカジノを容認できるの

であれば、そのほうが早いのでは、とい

う意見もあります。いずれにしても、現

に小樽は観光地ですから「カジノをつくりてお客様を集めるのではなく、カジノ

があれば楽しめる、というイメージで私はカジノに期待しています。

海老名 カジノを誘致するといつたとき

に、世の中を一新するような議論に引き

込まれそうな感じがありますが、ラスベ

ガスやマカオといった巨費を投じたカジ

ノ・コンプレックスではなく、ヨーロッ

パ型のモデルをさらに誘致していくとい

つた理解で宜しいのでしょうか。

木村慶一

(カジノ・オーストリア・インターナショナル日本代表)

なると思いますが、はじめからカジノありきではなく、旅行者の憩いの場として副的にカジノがあり楽しさの厚みを増した観光地にしたいのが私のイメージです。今後、反対の方にも議論に加わっていただき、核になる理念をはつきりと打ち出した上で誘致活動を行っていくべきだと思います。

山田 先日たまたま私のところに（道厅

から）「カジノについて進めたらどうか」

という電話がありました。道内では各地

でカジノ誘致の手が挙がっていますが、

北海道の中では小樽が進んでいる、とい

うのが道厅の認識だと思います。また、

議員立法でのカジノ合法化を待つよりも、

道州制特区の中でカジノを容認できるの

であれば、そのほうが早いのでは、とい

う意見もあります。いずれにしても、現

に小樽は観光地ですから「カジノをつくりてお客様を集めるのではなく、カジノ

があれば楽しめる、というイメージで私はカジノに期待しています。

海老名 カジノを誘致するといつたとき

に、世の中を一新するような議論に引き

込まれそうな感じがありますが、ラスベ

ガスやマカオといった巨費を投じたカジ

ノ・コンプレックスではなく、ヨーロッ

パ型のモデルをさらに誘致していくとい

つた理解で宜しいのでしょうか。

木村慶一

(カジノ・オーストリア・インターナショナル日本代表)

なると思いますが、はじめからカジノありきではなく、旅行者の憩いの場として副的にカジノがあり楽しさの厚みを増した観光地にしたいのが私のイメージです。今後、反対の方にも議論に加わっていただき、核になる理念をはつきりと打ち出した上で誘致活動を行っていくべきだと思います。

山田 先日たまたま私のところに（道厅

から）「カジノについて進めたらどうか」

という電話がありました。道内では各地

でカジノ誘致の手が挙がっていますが、

北海道の中では小樽が進んでいる、とい

うのが道厅の認識だと思います。また、

議員立法でのカジノ合法化を待つよりも、

道州制特区の中でカジノを容認できるの

であれば、そのほうが早いのでは、とい

う意見もあります。いずれにしても、現

に小樽は観光地ですから「カジノをつくりてお客様を集めるのではなく、カジノ

があれば楽しめる、というイメージで私はカジノに期待しています。

海老名 カジノを誘致するといつたとき

に、世の中を一新するような議論に引き

込まれそうな感じがありますが、ラスベ

ガスやマカオといった巨費を投じたカジ

ノ・コンプレックスではなく、ヨーロッ

パ型のモデルをさらに誘致していくとい

つた理解で宜しいのでしょうか。

木村慶一

(カジノ・オーストリア・インターナショナル日本代表)

なると思いますが、はじめからカジノありきではなく、旅行者の憩いの場として副的にカジノがあり楽しさの厚みを増した観光地にしたいのが私のイメージです。今後、反対の方にも議論に加わっていただき、核になる理念をはつきりと打ち出した上で誘致活動を行っていくべきだと思います。

山田 先日たまたま私のところに（道厅

から）「カジノについて進めたらどうか」

という電話がありました。道内では各地

でカジノ誘致の手が挙がっていますが、

北海道の中では小樽が進んでいる、とい

うのが道厅の認識だと思います。また、

議員立法でのカジノ合法化を待つよりも、

道州制特区の中でカジノを容認できるの

であれば、そのほうが早いのでは、とい

う意見もあります。いずれにしても、現

に小樽は観光地ですから「カジノをつくりてお客様を集めるのではなく、カジノ

があれば楽しめる、というイメージで私はカジノに期待しています。

海老名 カジノを誘致するといつたとき

に、世の中を一新するような議論に引き

込まれそうな感じがありますが、ラスベ

ガスやマカオといった巨費を投じたカジ

ノ・コンプレックスではなく、ヨーロッ

パ型のモデルをさらに誘致していくとい

つた理解で宜しいのでしょうか。

木村慶一

(カジノ・オーストリア・インターナショナル日本代表)

なると思いますが、はじめからカジノありきではなく、旅行者の憩いの場として副的にカジノがあり楽しさの厚みを増した観光地にしたいのが私のイメージです。今後、反対の方にも議論に加わっていただき、核になる理念をはつきりと打ち出した上で誘致活動を行っていくべきだと思います。

山田 先日たまたま私のところに（道厅

から）「カジノについて進めたらどうか」

という電話がありました。道内では各地

でカジノ誘致の手が挙がっていますが、

北海道の中では小樽が進んでいる、とい

うのが道厅の認識だと思います。また、

議員立法でのカジノ合法化を待つよりも、

道州制特区の中でカジノを容認できるの

であれば、そのほうが早いのでは、とい

う意見もあります。いずれにしても、現

に小樽は観光地ですから「カジノをつくりてお客様を集めるのではなく、カジノ

があれば楽しめる、というイメージで私はカジノに期待しています。

海老名 カジノを誘致するといつたとき

に、世の中を一新するような議論に引き

込まれそうな感じがありますが、ラスベ

ガスやマカオといった巨費を投じたカジ

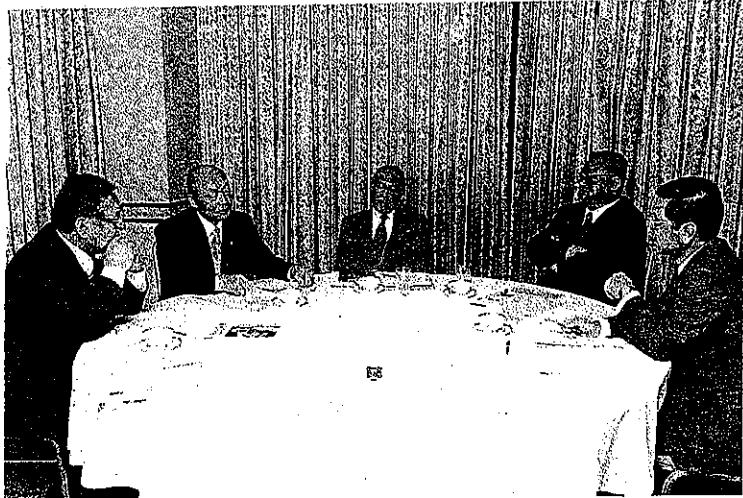
ノ・コンプレックスではなく、ヨーロッ

パ型のモデルをさらに誘致していくとい

つた理解で宜しいのでしょうか。

木村慶一

(カジノ・オーストリア・



小樽にカジノを誘致する会

http://www.otorucci.jp/otaru_casino

した。札幌と小樽の両方にカジノができるとは考えられませんから、どこが有力候補地になるか道府の影響力は大きいと思います。

眞田 港町というロケーションや、建物の見栄えという点では小樽がふさわしいと思います。小樽の町は石垣など起伏に富んでいますから、景観のいい場所にカジノを建てるのも可能です。もちろん札幌にも札幌にしかない利点があると思いますので、例えるなら東京と横浜、大阪と神戸の関係に似た役割分担ができるらしいと私は思います。

山田 いま広域連携でそれぞれの地域特性を活かした町づくりを目指す方向になっていますから、その中で、どこにカジノがあれば良いのか考えると小樽が一番良いと思います。

木村 日本で10カ所のカジノが認められるとしても、北海道に2、3カ所カジノが認められるというのはまず考えられません。仮に小樽にカジノができた場合、北海道を訪れる観光客の目玉になることは間違ひありません。海外からも、たとえばニセコを訪れるオースト

ラリアやアジアからの旅行客もターゲットになると思います。

海老名 やはりカジノ誘致にはいろいろな議論がありますし、

市民の合意形成も時間がかかるかと思います。皆さんが漠然と不安に思っていることをいかに実例に即して取り除いていくのか、そしてどう将来の活性化につなげていくのか、そのへんの整理がとても大切だと思います。最後に皆さん一言ずつお願ひします。

木村 世界には大・中・小のいろいろなカジノがあり、その多くが国家や都市を支えているという事実があります。そのような情報が日本ではなくなかなかクローズアップされていません。小樽カジノを推進される皆様にはぜひ幅広い見地から議論していただきたいと思います。

海老名 大学としても昨年から小樽市と包括連携協定を締結し、小樽の食品をアジアに売り込むといった商談会を開催したりと、町の活性化についての様々なプランを実行しているところです。カジノで根底から小樽を変えるというのではなく、広域連携で札幌市とも協力しながら勉強を進めていきたいと思います。

眞田 市民の生活を守り、また市民が夢を持つ、そんな町づくりは経済の活性化を図らずしてありません。小樽というのは、経済、商売なくして格好がつきません。有り難いことに、小樽には小樽商大という日本でも有数の経済商科大学があるのですから、やはり勉強をしながら発展していきたい

と思います。新しいことに挑戦して行く積極性がなければ発展しませんよ。

山田 小樽はやはり立地条件がとてもいいと思います。アクセスがよく、千歳空港から電車で約1時間の距離です。札幌の隣ですので、カジノができればより活性化できると期待していますので、これは大いに進めていくべきだと思います。

鎌田 小樽へのカジノ誘致は、産官・学の総合力で取り組みたいと

思います。昨年12月に立ち上がりたばかりの「小樽にカジノを誘致する会」に、小樽商大もぜひ参加していただいて議論に加わって下さい。

海老名 大学としても昨年から小樽の食品をアジアに売り込むといった商談会を開催したりと、町の活性化についての様々なプランを実行しているところです。カジノで根底から小樽を変えるというのではなく、広域連携で札幌市とも協力しながら勉強を進めていきたいと思います。